

教 育 長 様

代表者 校 園 名：大阪市立喜連中学校

公印

校 園 長 名：源 嶋 史 展

電 話：06 (6704) 0003 F A X：06 (6797) 8152

申請者 校 園 名：大阪市立喜連中学校

職 名・名 前：養護教諭 西木 澄江

電 話：06 (6704) 0003 F A X：06 (6797) 8152

代表者校 園 事 務 職 員 名：大阪市立喜連中学校 金江 純

平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 報告書

◇ 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース：いずれかを○で囲んでください。 個人研究コース ・ グループ研究 A コース ・ <u>グループ研究 B コース</u>
	継続研究：いずれかを○で囲んでください。 継続研究 (2 年目 ・ 3 年目 <u>4 年目</u>)
2	研究テーマ 「養護教諭の専門性を活かした健康教育をめざして」 ◆ 研究内容のキーワード： <u>研究の内容をキーワードで書いてください。</u> (【例】学力向上、体力向上等) 基本的生活習慣の確立、心身の健康管理、自己管理能力の育成、連携
3	研究目的： <u>箇条書きで端的に書いてください。</u> ○幼稚園・小学校・中学校・高等学校のそれぞれの発達段階に応じた健康教育を推進する。 ○子どもたちが、生涯にわたり心身の健康の保持増進を図るための健康教育を推進する。 ○養護教諭の専門性を活かし、効果的に健康教育を実践する方法を探究する。
4	取り組んだ研究内容： <u>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</u> 子どもたちが、生涯にわたって心身ともに健康で安全に生活できる能力を身につけることをめざし、学力向上や体力向上の基礎となる基本的生活習慣の確立や健康に関する現代的な課題に適切に対応する能力・態度・実践力を獲得するための支援方法について、各校園種別に養護教諭の専門性を活かしたテーマを設定し、研究を進めた。 (1) 地区別・校種別に分かれて共同研究に取り組み、12 月に以下のテーマで研究発表を行い、そこから学んだことを、各学校園での教育活動、教育実践につなげるよう取り組んだ。 生野区小学校共同研究「プラス ワン ステップ― PDCA サイクルを活用した保健教育―」 西成区小学校共同研究「児童の実態に合わせた保健指導の工夫 ―子どもの心に残る保健指導をめざして―」 第 3 ブロック中学校共同研究「ICT の機能を活かした保健指導を工夫する ―より効果的な教材作成を目指す―」 今回、発表した共同研究については平成 29 年 7 月に堺市で開催される近畿養護教諭研究協議会で発表する予定である。 (2) 大阪市養護教員会の研究部を中心に、9 月に全校園の養護教諭を対象に調査を実施し、「定期健康診断に関する調査と考察―定期健康診断のさらなる充実をめざして―」の研究を進めた。その成果を 3 月 7 日の定期研修会で発表し、全校園の養護教諭で協議し、太田整形外科クリニック院長の太田信彦先生に「運動器検診と子どものロコモ」の演題でご講演いただき、専門性の向上を図る。 (3) 全国レベルの健康教育関係の研究会・研修会に参加し、その研修内容を報告・伝達講習したことで全校園の養護教諭で共有し、研鑽を深めた。 (4) 各校園で日々収集している保健室統計データ（保健月報）を集計・分析したことで、子どもたちの健康課題や問題点を見出し、心と体の健やかな成長を支援する手立てを探った。子どもたちが

発信しているサインに、いち早く気づくことができる立場にある養護教諭として、保健室で得た情報から、教職員・保護者・関係諸機関へコーディネートすることができるように情報編集能力を高めた。また、校務支援パソコンを機能的に活用し、データの有効活用を図った。

5 成果・課題：申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。

- ※ 継続研究については、これまでの検証と成果も踏まえて記載してください。
- ※ アンケート調査結果など、数値で示すことのできるものは必ず記載してください。
- ※ 申請書に記載した、「見込まれる成果」に達することができたのかどうか、子どもの様々な力の向上、教員の指導力の向上をふまえ、わかりやすく、具体的に記載してください。

(1) 養護教諭の資質や能力の向上が図れたかについて

昨年度に引き続き、研修会について、内容理解度や活用度などを、各々の研修会後にアンケート調査を実施したところ、昨年度は平均約 97%であったが、今年度は 99%から 100%が充実した研修会であったと回答している。

これらのアンケート調査結果より、研究成果を大阪市立学校園全体の養護教諭で共有することで、養護教諭としての資質や能力の向上に努め、学校保健活動に活かすことができたことは明らかである。

(2) 「定期健康診断に関する調査と考察—定期健康診断のさらなる充実をめざして—」の研究について

今年度より、学校保健安全法施行規則の一部改正に伴い定期健康診断の内容が一部変更されたことから、前年度に実施したアンケート調査結果を踏まえて、各校園で今年度実施した定期健康診断について準備・実施・事後の活動について振り返り調査を行い、その結果から考察を行った。

今年度より必須化された運動器検診については、保護者からの保健調査結果の内容を踏まえて健康診断の前に動作確認を行っている学校園では、実際に動作確認を行ったのは、養護教諭が 50% 担任・体育担当教員が 40%であった。一昨年度の研究結果より、健康診断等の学校保健活動の推進には、学校内での教職員との連携は必須であることが示唆され、また、昨年度の調査研究では約 90%の学校で健康診断を計画的に進めるために教職員や学校医への相談や協議を図った、または予定であるとの回答であった。健康診断をより効率的に進めていくには、教職員、学校医、保護者等との連携の必要性が3年間の調査研究からも明白となり、研究の結果を活動に活かすことができた。

また、学校での健康診断は学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングする役割があり、児童生徒等は自分の健康状態を認識し、健康の自己管理能力を育み、教職員はこれを把握して、適切な健康教育や学習指導等へとつないでいくことが望まれる。

(3) 健康教育に関する全国レベルの研究会への参加について

がんばる先生支援事業（旅費）により、数多くの全国大会レベルの研修会に参加することができた。参加した養護教諭から、研修会の折に伝達講習・概況報告を行い、研修を通して得られた知識や情報を共有し、研鑽を深めることができた。

(4) 保健室データの情報処理等の活用について

校務支援パソコンから、保健室データを保健月報とリンクする方法を開発し活用したことにより各校園で日々収集している保健室統計データ（保健月報）を集計・分析して、各校園で健康課題の早期発見に生かすことができている。

上記のような研究・研修活動において研鑽を深めたことにより、大阪市立学校園全体の養護教諭の資質向上が図れたことと、子どもたちの発達段階に応じた適切な健康教育を効果的に実施する知識や技量を身につけることができた。子どもたちへの健康教育の効果の検証については、「正しい知識を身につけ、健康行動がとれる、または行動変容ができる子どもが育成できたか」という評価になるので今後の子どもたちの成長や生活の様子などが判断の指標となる。よって、本研究は、今後も長期間にわたって継続して取り組みを続ける必要があると考える。

6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程 平成 29 年 3 月 7 日
場所：大阪市教育センター
参加者数：約 520 名

上記の内容を原則として A 4 判 2 ページで作成し、平成 29 年 2 月 24 日までに大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。（研究資料等を添付）